

## 優秀賞

「ボランティアとは何か？」

平安女学院高等学校 1年

槇山 いまり

私はこの夏フィリピンのセブ島へボランティア留学をしました。日本から近いフィリピンでも深刻な貧困の問題があることを知り、そこで活動する DAREDEMO HERO というボランティア団体で、私も貧困の問題解決に貢献したいと考えたからです。私が初めにイメージしたボランティア活動は、子どもたちと一緒に折り紙を折ったり、歌を歌ったり、一緒に子ども達と楽しむことでした。また私は貧困の問題解決には支援物資を与えて現地の人々に喜んでもらえれば解決すると思っていました。しかし、その考えはこの留学で変わりました。

それは私が貧困地区で団体の方と活動をしていた時のことです。日本から別の高校生のチームが視察へやってきました。高校生たちは折り紙やけん玉、お絵描きグッズなど、たくさんのお土産を持ってやって来ました。現地の子供達は彼らの訪問をとても喜びましたが、その活動に参加できる子どもの数は高校生の人数に合わせられました。そしてその周りには羨ましそうに眺める子どもたちがいました。私は一時的でも支援を受けられる子どもがいる一方で、支援を受けられない子どもがいることを知りました。どうしても彼らの中で不平等が生じてしまいます。また一部の子供達へ折り紙やけん玉、お絵描きグッズなどを与えることで、不公平だと現地の人々の間で喧嘩や奪い合いなど新たな問題を引き起こしてしまうことにもなりかねません。

同じ日、現地の子供達と高校生はランチ交流会をしました。昼食の内容は、たっぷりの白ご飯と鶏肉そしてポテトです。現地の人々からすればとても豪華な食事です。これも高校生の人数に合わせて限られた数の子どもしか食べることができませんでした。そして今日食べられた子どもも明日は日常に戻ります。貧困の現実は何も変わりません。そして明日必ずご飯が食べられるとも限りません。私は彼らにとって、日本人がとても残酷なことをしているように感じました。ただ物を与えるだけの無償支援は彼らの本来の暮らしを壊してしまうのではないかとさえ感じました。これらの活動は本当に彼らの救いになっているのか？これはボランティア活動ではなく日本人にとって遊びの延長ではないか？この活動が貧困問題の根本的な解決につながっているのか？ボランティアってなんだろう？私はボランティアとは何か、分からなくなっていました。

と同時に私は留学前に団体の方に指摘された言葉を思い出しました。「自分のやりたいこと≠ボランティア活動。」今日出会った高校生たちの活動は私が団体の方に「セブでボランティア活動がしたいということですが、あなたは何かができますか？」と聞かれ「子どもたちと一緒に歌を歌ったり遊んだりしたいです」と答えたあの時の自分でした。

しかし今、私が考えることは折り紙やけん玉などは支援を行う上でのコミュニケーションツールでしかないということです。現地の人々が必要とする支援を考えて進めることが海外で活動するときが一番大切にしなければいけないことだと気付きました。また一時的な無償支援を与えることではなく、必要なものを自分の力で手に入れる方法を伝えること

が大切だと思いました。「自分がしたいこと≠ボランティア活動」の意味をこの留学を通し少し理解することができたと思います。

ボランティアとは何か？今はまだはっきり答えは見つかりません。しかし私はそれで良いと思っています。私はこれからもボランティアとは何か？支援を必要としている人々の気持ちに寄り添い、自分にできることは何か？と考えながら活動していきたいと思っています。